

別科土壌作物栄養学実習 バレイショ種芋の播種

2020年5月18日(月)

1. 品種：キタアカリ

十勝農協連農産課から頂いた種イモ(40kg)を使用する。

2. 種芋の用意

1区3畝。1畝の長さ5メートル。

1畝に16個。30cm間隔で播種する。

1区には48個の種芋が必要。2区には96個の種芋が必要。

コンテナには2区(畝6本)分の種イモ10kgが入っている。種イモは丁寧に扱い、芽を落とさないようにする。

10kgの種イモの個数を数えたところ、130個あったので、2区分の個数として十分である。5月13日から寒冷紗で覆って浴光を開始した。浴光に際しては、涼しく風通しの良いところで、直射日光を避けて行ってくださいとのアドバイスを受けたので寒冷紗を使用した。



3. 畝の形の調整。

畝の幅 40cm。高さ約 20cm。方向は南北方向にまっすぐになるように調整する。5月9日に行った。

4. 施肥

肥料は5月9日（土）に計量し、5月12日（火）に施肥した。



5. 種イモの播種

播種前に畝と周辺の雑草の根（特にシバムギの根）を丁寧に除去する。畝の中央部に、30cm 間隔で播種する。北側から 30cm 空けたところから播き始める。まず畝の上に種イモを並べて個数と間隔を確認したのち、種芋の大きさの2倍（10cm）程度の深さに種イモを埋めて、軽く土をかける。新イモは種イモよりも浅い位置にできるので、深く埋めた方が良い。

5月14日（木）、種イモを全ての区に播種した。



6. 畝の土寄せと除草剤ゴーゴーサン細粒 F 剤の散布

5月15日(金) 畝に土寄せをし、上面をクワの背で押して平たくし、畝の形状を整えた。また、畝の土の中に混在するシバムギの根をできるかぎり除去した。その後、表面に散水したのち、除草剤ゴーゴーサン細粒 F 剤を 100 平方メートル当り 600 g 散布した。この除草剤は土壌表面処理剤として一年生雑草の発芽を抑制するものである。今年使用する圃場は去年雑草がはびこっていたので、各種の雑草の種子が豊富に埋もれており、除草剤の利用なしには管理が困難である。

下の写真の左上は土寄せと畝の整形が終わったところ、右上はシバムギの根、左下と右下は、除草剤ゴーゴーサン細粒 F 剤散布後の圃場である。

7. 培土

種芋が発芽したら、発芽後 10 日目から 20 日目くらいに培土(土寄せ)を行う。



8. これまでの作業記録

4月25日	圃場の区画割り、測量、ポール立て
4月30日	大きな雑草除去
5月5日	全面耕起
5月7日	再測量、畝の位置にポール立て
5月8日	十勝農協連から種イモ受け取り 別科教育用に恵与。
5月9日	肥料の計量 1区ごとに揃えて袋に入れる。畝立て。
5月12日	施肥
5月13日	種イモの浴光処理。寒冷紗使用。
5月14日	種イモの播種。
5月15日	畝の土寄せ、整形。除草剤ゴーゴーサン細粒 F 600g 散布。

9. 野生動物による被害

5月17日午後、圃場を見に行ったところ、畝が5カ所堀返されており、種イモが2個近くに落ちていた。残りの3個はみつからなかったため、野生動

物に食べられたものと思う。畝の上に糞も落ちていた。種イモは補植しておいた。



10. 課題 (5月18日)

バレイショ栽培において、培土が何故重要なのか説明しなさい。

筒木のメール kiyosi.tutuki@icloud.com 宛に5月20日までに送信すること。